

グループホーム北陽
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171501075		
法人名	(有)Win北陽		
事業所名	グループホーム北陽 (大地ユニット)		
所在地	北海道北斗市東前74番地の1		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171501075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◇大野平野の静かな田園地帯に立地し、函館山や横津連山、木地挽高原や駒ヶ岳を臨め、近場には『北斗桜回廊・北斗紅葉回廊』があり、四季の彩りを間近に感じることが出来ます。◇地域との交流が多く、系列の放課後等デイサービス北陽の児童や近郊の小学校や幼稚園はもとより町内会との関わりも密にとっていました。しかしコロナ禍の中、殆どの行事やイベントの中止を余儀なくされました。また、外出する機会も激減し面会制限もあることから利用者の精神的影響も多少なりとも見られています。そのような状態から脱却するために施設内での行事・イベントを例年よりも多く取り入れました。またSkypeを利用したweb面会を行い御家族との係わりを継続しています。それによりり利用者の笑顔も増え、より良いケアに繋がったと思います。◇開設時から一緒に過ごしている北海道犬の『ういん』も15歳を越し高齢となりましたが、今でも現役で利用者のハートを掴み癒し上手を発揮しています。◇対外的な活動として南北海道グループホーム協会、北斗市のキャラバンメイト『ほくとメイト』、ほくと市認知症のひと家族の会『すみれの会』、北斗市介護支援専門員協会に所属し積極的に活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム北陽」は近くを北海道新幹線が走る大野平野の田園地帯に位置し、静かな環境に立地している。遠くに函館山が望め、横津岳や駒ヶ岳、木地挽き高原まで見渡すことが出来る。建物は木造平屋造りで、玄関と事務室を中心に左右に各ユニットが分かれ、ユニットの居間兼食堂は吹き抜けで天窓からの採光にも優れ明るく開放的な造りである。居室は畳敷きとフローリングが用意されている。地域との交流も感染症対策のもと途切れることなく続けられ、小学校には焼き立て熱々の焼き芋を大量に届け、後日お礼の手紙やDVD等のプレゼントをもらい双方向的な交流がなされている。地域の神社とは開設時からの付き合いがあり、年4回の神事には神酒を供えてこの地域伝わる慣習を継承している。ケアの面では毎日浴槽に湯を入れて利用者の希望にいつでも添える様に準備し、また、献立は「地産地消」を心がけ、米は地元でとれる「ふっくりんこ」を直接農家から購入し、魚屋からも旬の食材を仕入れ、山菜なども食卓を豊かにして健康的な食事になる様に心がけている。正月にはおせち料理を一人ずつ重箱に盛り付けて、お歳とり(大晦日)の膳に並べ、また、管理者自ら打った「そば」を食べて年越しをするなど、この地域の正月の慣習も大切に守りながら利用者と職員は事業所の理念でもある「ゆっくり穏やかに、のんびり楽しく、笑顔で共に暮らす日々」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、掲げてある理念を唱和している。また、管理者から実際の生活に当てはめた具体的な話等も伝えている。	16年前の開設時に事業所独自の理念を作り、さらにユニットごとに目標を掲げ、具現化して実践につなげている。お便りやパンフレットにも「ゆっくり穏やかに、のんびり楽しく、笑顔で共に暮らす日々」を掲載して、利用者と共に生きて行くための思いを家族や地域の方にも伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域を巻き込んだ大きな行事は中止となりました。事業所自体が地域の一員として景観や環境を損なわないように、日頃から除雪を含めた環境整備に努めている。	町内会に加入し、事業所便りは町内会に直接出向いて手渡している。年4回行われる地域神社の神事には神酒を供え、古くからの慣習を継承している。夏と秋のゴミ拾いには職員が参加して、古くからの住人と馴染みの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段の生活の様子などを広報誌にまとめ、運営推進会議で配布し理解を深めて頂いている。また、地域で行きかう方々と世間話を兼ねてホームでの様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、対面ではなく書面開催となっているが、各委員の方々と他の場所で会う機会があり、それらの場で意見を頂くことがある。	感染症対策のため、一堂に会した運営推進会議の開催は困難だが、書面開催をして利用者の生活振りや行事の様子を写真で報告している。ヒヤリハットと職員の状況報告などを会議議事録に纏めて、家族や運営推進会議関係者に送付し、町内会には手渡した際に積極的に情報交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はコロナ関連で連絡・意見交換等の機会がより増している。	市の担当職員とは、制度や規程等が分からない時は相談をしてアドバイスを受けている。北斗市の認知症家族の会の活動として図書館に認知症の本を寄贈している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを基本原則として、全職員が周知し取り組んでいる。玄関施錠については防犯上、夜間のみ行っている。	身体拘束禁止委員会を年5回開催し、また、事業所内・外部の研修会は伝達講習も含め年4回実施している。事例検討や介護の基礎を勉強し、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度、身体拘束適正検討委員会を開催し、そこでの情報をユニット会議で周知している。日頃から利用者への声掛け・対応に気をつけ、グレーゾーンと言われる範囲まで配慮し、虐待に繋がらないよう職員間で注意し合いながら対応している。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体での学習機会は設けておらず、職員間での意識・知識に差が見られる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金やその他おこりうるリスク、健康状態や認知症が重度化した場合の対応、事業所のケアに対する考え方などの説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時や電話連絡等の機会に意見や要望を伺うようにしている。	利用者の日頃の様子を一人ひとり写真や担当職員のコメントを添えて、2か月ごとにお便り（広報紙）として家族に報告し、意見や願い事を収集して運営に活かしている。入浴時に同性介助を望む利用者には、シフトを調整し本人が望む対応をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議、毎日の申し送り、その他日常的に意見を吸い上げる努力をしている。	管理者は日頃から意見や相談、アイデアを聴く機会を多く確保し、全職員で検討して運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活の都合を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れやりがいに繋がるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、積極的な研修参加には至っていないが、介護福祉士資格に関わる実務者研修に対しては勤務扱いとしシフトの配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表、管理者が各種会議等の場で情報交換を行い、地域・利用者・家族・職員に還元できるように努めているが、コロナ禍の影響で縮小されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談ではご自宅に訪問し、本人の不安や希望を傾聴し、安心して過ごせるように配慮している。また気付いたことはスタッフ内で共有しより良い支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや意見、事情などを十分に伺い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応し、場合によっては包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活主体は利用者であることを基に、残存能力の状態により様々な活動・作業を行い日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行いながら、本人と関わる際のヒントを頂く。また、二月に一度、写真付きの手紙を送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があるが、親しい人との面会や連絡が出来るよう、Skypeの活用も行っている。	家族との面会をオンラインで毎週行っている利用者が1名、3か月ごとに床屋を利用する利用者は感染症まん延防止解除のタイミングを見ながら、家族の了承を得て行っている。外食が思うように出来ないため、家族と相談して本人の好物を用意し食すことで、「楽しく、穏やかに、笑顔で暮らす」精神的な支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を配慮したり、日常生活での作業を一緒にに行い関わり合いが出来るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型であることから、契約終了後に家族と係わりを持つこともあり、それらの方から新たな相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で希望や意向を伺い、出来るだけ希望が叶うように努めているが、対応できないこともある。それらの情報を職員間で共有し検討するよう努めている。	日頃から利用者の気持ちに寄り添い、思いや願い事、不安までも傾聴し、言葉で表せない精神の揺れ動きまで感じ取り、記録に残して職員間で共有している。必要に応じて検討を加え、希望が叶う様に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族・ケアマネジャー等から聞き取り、情報収集を行っている。また生活を始めてから本人しか知らない情報も多くあり、それらを基に支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムが各々異なり、体調・気分の良し悪しも日々異なるため、申し送り時を含め、細かな情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から思いや意見を聞き、ユニット会議等で職員からの意見をまとめケアプランに反映させている。	介護計画は職員が行ったモニタリングや本人・家族の希望、医師の意見などを参考にして作成している。具体的な項目に番号を付けて日々実践経過を記録し、短期目標達成に向けた進捗状況が全職員で把握できるように、介護日誌の記録方法を工夫している。今後もさらに把握しやすい様式などを検討していく考えである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、食事・水分摂取量、排泄状況等を個別に記録し、職員間で情報共有し、より良いケアに繋げるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院介助支援を行ったり、利用者の思いの深い場所への外出等を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアの依頼等を行っていたが、コロナ禍の影響で自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診、必要や状況に応じて専門医への受診や通院介助にも対応している。	かかりつけ医は本人と家族が希望する医療機関とし、通院は職員が同行して日頃の様子を医師や看護師に伝えている。看護師による健康管理も行われ、24時間安心できる医療体制を整えている。	

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携契約に基づき、看護師に日常の健康管理、緊急時・急変時の助言・指示、医師との連絡調整を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ家族と一緒に医師や看護師の説明を聞くようにして速やかに情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合は家族との話し合いを行っている。事業所で可能な対応についても話し合い、理解を得るようにしている。	重度化や看取りが見込まれる時は、医師が家族に説明をして同意を得ている。昨年5月に看取りを経験し、看取り後は全職員で振り返りをし、医療連携が図れる時は今後行う考えである。管理者と職員はウェブサイトなどで研修を積み、また、管理者は終末ケア専門士の資格を有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。心肺蘇生法やAEDの使用方法等の講習を受けている。今年度はコロナ禍もあり講習等は未実施である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。また、町内会との協力体制を築き、北斗市との指定福祉避難所の締結も行っている。現在、BCPの作成途中である。	感染症対策のため、年2回自主訓練を実施して、通報設備などの確認をし、消防署に報告している。町内の消防団とも連携を図って非常時に備えている。食料備蓄と近隣から電気を供給するドラムコードを用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの保護、尊厳の尊重を忘れず、常に言葉遣いや対応に気を配っている。	言葉遣いや呼び名は人格や関係性に配慮して、ブライドやプライバシーを損ねない様、礼節を重んじた対応を心がけている。呼び方は家族と相談して利用者の心地よい呼び方に決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を出来るだけ伺うように声掛けし、自己決定できるように支援している。また、思いを表出出来ない方には表情や態度から推し量ることで支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気持ちを考慮し本人ペースを大切にしている。日常生活を通じて利用者の思いの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じて衣類を選び着て頂いたり、普段から爪のケアを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に各々の好みを献立に取り入れたり、誕生日や行事食に特別感を持たせている。芋の皮むきや簡単な作業を手伝って頂いている。	献立は山菜や昔から食べ慣れた魚などを使い季節感を大切にした食事を心がけ、副菜も多くして様々な食品を摂取できるように工夫している。おやつはクッキーやシフォンケーキ、おはぎは手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立を考えて調理・提供し、食事・水分摂取量のチェックを行っている。また機能低下されている方は医師と情報共有し栄養面での指示・助言を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを実施している。食事摂取量・食事の様子の変化などから口腔内の異常を察知するよう心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を言葉で表出されない方は、表情や行動、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	昼夜ともに自立している利用者は5名程いるが、安心のためにパッド類の使用も本人に合わせて検討し、羞恥心や不安の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分補給、医師と情報共有し下剤の調整を行っている。また、軽い運動や体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各々のタイミングに合わせて誘導したり室温・湯温も好みに合わせるように配慮している。	毎日浴槽に湯を入れて、いつでも入浴できる様に準備している。ほとんどの利用者は週に2回以上入浴し、体調によって足浴も行っている。浴室には富士山の絵を貼ったり、湯桶にもこだわって銭湯気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動していただくようにしている。体力の低下や生活の勿れに拘りのある方には柔軟に対応している。安眠促進の為に夕方に足浴を行っている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の変更時は特に状態変化に気を配り、医師と情報共有し指示を仰いでいる。薬剤情報提供書を綴り、職員で確認把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食器拭き等の家事が可能な方には行って頂いている。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（大地ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので外部他者との接触を避けながらのドライブや散歩を行っているが、頻度は少ない。	利用者は散歩のために玄関を出ると心地よい風を肌で感じ、季節ごとに変わる匂いに気付き、馴染みの景色を見渡すと生き生きとした表情に変わり、季節の移ろいを五感で楽しみながら気分転換をしている。自宅周辺をドライブしたり、海を見に行き潮の匂いを感じ、街並みを見に行った際に神社に立ち寄り参拝をするなど、皆それぞれに少人数での外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により自己管理できる方には所持していただくが、現在はいない。コロナ禍であり必要物品は本人の意向に沿い職員が代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙や葉書が送られてきたり、Skype等でテレビ電話を楽しむ方もいる。またホームからは2月に一度メッセージ付きの個人別便りを送付している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾や、観賞魚等の飼育をし心地よさや気分転換を図れるように努めている。	建物の中心に事務所と玄関があり、職員は事務所から両ユニットに最短で行き来できる動線も確保されている。居間兼食堂の天窓から程よい陽が入り、天井も高く開放的で換気にも優れ、温度や湿度も利用者に合わせて適切に調整している。共有空間の随所に観葉植物を配置して落ち着いてゆっくり過ごせる様に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファやテーブルの位置を変えてトラブルなく落ち行いて過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用し本人の希望に応じ配置している。	居室は和室と洋室を好みによって選択している。各居室にはクローゼットが備え付けられている。使い慣れた家具や仏壇もスツキリと配置され、自分の部屋として個性豊かで、ゆったりと寛げる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を利用する方も多く、テーブルの配置等に配慮している。		

グループホーム北陽
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171501075		
法人名	(有)Win北陽		
事業所名	グループホーム北陽 (大空ユニット)		
所在地	北海道北斗市東前74番地の1		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171501075-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◇大野平野の静かな田園地帯に立地し、函館山や横津連山、木地挽高原や駒ヶ岳を臨め、近場には『北斗桜回廊・北斗紅葉回廊』があり、四季の彩りを間近に感じることが出来ます。◇地域との交流が多く、系列の放課後等デイサービス北陽の児童や近郊の小学校や幼稚園はもとより町内会との関わりも密にとっていました。しかしコロナ禍の中、殆どの行事やイベントの中止を余儀なくされました。また、外出する機会も激減し面会制限もあることから利用者の精神的影響も多少なりとも見られています。そのような状態から脱却するために施設内での行事・イベントを例年よりも多く取り入れました。またSkypeを利用したweb面会を行い御家族との係わりを継続しています。それによりり利用者の笑顔も増え、より良いケアに繋がったと思います。◇開設時から一緒に過ごしている北海道犬の『ういん』も15歳を越し高齢となりましたが、今でも現役で利用者のハートを掴み癒し上手を発揮しています。◇対外的な活動として南北海道グループホーム協会、北斗市のキャラバンメイト『ほくとメイト』、ほくと市認知症のひと家族の会『すみれの会』、北斗市介護支援専門員協会に所属し積極的に活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで掲示してある理念を唱和し、内容の確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域のイベントは中止となりました。事業所自体が地域の一員として景観や環境を損なわない様に、日頃から除雪を含めた環境整備に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や生活の様子を広報誌にまとめ、運営推進委員や「ほくと市認知症の人と家族の会」等で配布し理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、対面ではなく書面開催を6回行っている。各委員の方々と他の場所で会う機会があり、それらの場で意見を頂いている。また運営推進会議の資料は家族にも配布・公表し、より良いサービスに繋がるように活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の保健福祉課との事務連絡の他、運営推進会議、北斗市の家族会等でも顔を合わせ情報交換や広報誌の配布等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で身体拘束をテーマに研修を行っている。身体拘束をしないケアを基本原則として、全職員が周知し取り組んでいる。夜間の玄関施錠は防犯上の理由から行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な介護の延長上に虐待があると認識し普段から利用者への声掛け、態度に気を付け、注意し合い、虐待に繋がらない様にしている。又、職員個別に面談する機会を設けている。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体での学習機会は設けておらず、職員間で意識・知識の差が生じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金、事故のリスク、健康状態・認知症が重度化した場合の対応、事業所のケアに対する考え方等の説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口が記載された重要事項説明書を玄関に掲示している。又運営推進会議議事録を配布・公表し、家族からの要望も取り入れやすいように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は、毎月のユニット会議や毎朝のミーティング、それ以外でも都度意見を吸い上げている。勿論、業務時間外でも機会を設け職員の意見や提案、相談等に応じている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活環境に応じ意見を取り入れ時短勤務や夜勤回数の調整等を含めシフト作成に努めている。また、モチベーションアップに繋がる資格手当の新設。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、主にリモートでの研修参加はしている。介護福祉士に関わる実務者研修に対してはシフトの配慮と受講料の一部補助を行っており、ハローワーク給付金の情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会、ほくと市認知症の人と家族の会、北斗市介護支援専門員協会の活動に積極的に参加し、勉強会・会議等で情報交換し、地域・利用者・家族・職員に還元出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談では自宅・施設・病院に訪問し面談を行う。その際、不安や希望を聞き取り、又感じるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を把握し、思いや意見、事情など十分に伺い、出来ること・出来ない事を理解して頂き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の優先順位を精査し対応している。又連携施設との調整も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員都合の時間経過ではなく、生活の場として利用者主体で暮らしてもらえるような支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の混乱等、ネガティブな情報もありのままに家族に報告している。それをもとに家族から関わりのヒントが引き出せられる様に心掛けている。また、広報誌の他、個別の便りを送り情報共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があるが、skypeでのweb面会には制限がないので、希望があれば行う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性、認知症の症状を考慮し、トラブルにならない様に、また楽しく過ごせるように配慮している。その為、毎日の申し送りを行い、情報を共有し、気配り、目配りを心掛けた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活スタイルを担当ケアマネジャーにお伝えし、移動先でもスムーズに生活出来るように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動の中から希望や想いを伺い、又推し量る事で把握している。そのうえで職員間で議論し、より本人の想いに近付けるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族・ケアマネジャー等から聞き取りにより、情報共有を行っている。しかし、実際の暮らし始めてから出てくる差異・相違ある為、一つひとつ再度精査している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や気分の落ち込み、認知症の進行に繋がっている事も多い為、普段と違う変化に気づけるような観察を意識している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から思いや意見を聞き、日々の申し送り・ユニット会議等で意見交換を行っている。また、担当医からの医療的指示・助言も計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間帯・職員・場所等、条件・環境が変わる事で利用者の行動・心理に変化が見られることから、気づきの度に情報共有を行うように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、本人や家族の要望に応じ、変化するニーズに対し支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域行事への参加、外部ボランティアによる催し等を頻繁に行っていたが、コロナ禍の中、自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診を基本とし、必要・状況に応じて他の専門医の受診・通院介助も行っている。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携契約に基づき、看護師に日常の健康管理、緊急時・急変時の助言・指示、医師との連絡調整を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報共有を行っている。コロナ禍の今、対応は出来ないが、以前は小まめに面会・お見舞いに出向いていた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、また見込まれる場合、家族との話し合いを行う。今後何が出来て何が出来ないのかをしっかりと伝え、方針の決定が出来るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。また少数であるが普通救命講習を受けている。今年度はコロナ禍もあり講習は未実習である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。また町内会の協力により地域との協力体制を築いている。北斗市と指定福祉避難所の協定締結をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意をもって接するようにしている。馴れ合いの関係ではなく、「生活のお手伝いをする」という気持ちで接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話・傾聴により、本人の言葉や態度は元より、内に秘めた思いも推し量り、自己決定に繋げられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活をしていただいている。ただ極端な孤立を好む利用者には柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は自己選択で服装を決めていただいている。髭剃りや整容等はこれまでの生活歴に合わせ行っている。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや簡単な調理準備を一緒に行って頂いている。また、調理レクを取り入れおやつの時間に合わせ行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的指示がある方はそれに準じ、その他、嗜好等を把握したうえで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事形態、歯の状態等に配慮し、能力・習慣に応じたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難な方にも出来るだけトイレでの排泄を行って頂いている。尿意・便意を表出されない方は表情や行動から推し量り、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスを考えた献立を作り、食事を取って頂いている。また日々の運動促進・水分摂取促進の他、医師からの助言指示・処方も受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日による入浴は行っていない。その中で週に2回の入浴を行っていただけるよう、声掛けや雰囲気作りに配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けたり、夜間安眠できるように、日中の過ごし方を工夫したり、個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を綴り、確認把握している。安定剤等を服用している利用者にはより変化が分かるように個別のシートを使っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、行事、利用者・職員とのコミュニケーションを通じ、楽しみや張り合いを感じて頂けるように支援している。		

グループホーム北陽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(大空ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外部他者との接触を避け個別のドライブや散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は所持して頂いている。ただそのような方はコロナ禍を理解されており、買い物代行で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日中の電話の取次ぎの制限はなく、希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下の壁に行事等の写真を飾り、月替わりの装飾を行っている。また、コロナ対策で窓を開けての換気の頻度が多くなっているが、利用者の体感変化を軽減するために、冷暖房を積極的に使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ、食卓で気の合う利用者同士が過ごしている。また、スクリーンを使い視界調整を行い空間の仕切りが可能になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の希望に出来るだけ対応できるよう配慮し、使い慣れた家具や仏壇等をおいて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備え付けの手摺りは、個々の状態に合わせ、付け直している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム北陽

作成日：令和 4年 4月 18日

市町村受理日：令和 4年 4月 19日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害対策として事業継続計画(BCP)の作成が出来ていない。	事業継続計画(BCP)を作成する。	厚労省、行政のガイドライン等を参考に、また、作成のための講習等に参加することでスムーズな作成を行う。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。